# 石屋工務店 かわら版

第164号

H29年5月29日発行



石屋工務店 TEL 075 492-1483（シックニ イシヤサン）

〒603-8474 京都市北区大宮薬師山東町 47-5　建設業／京都府知事(般-25)第 31625 号　インテリアコーディネーター登録店


## 粋人 石屋の お趣味人生 その140

### 平戸のこと

私の生まれ故郷である平戸から黒田市長が京都へお見えになりました。桂川イオンで開催された平戸フェアへ出席の為です。せっかくの機会と言う事で「平戸市長を囲む会」をさやかながら開催させていただきました。会食と二次会で市長の生ギター&歌を聞かせて頂きました。黒田市長は私と同じ歳で親近感が湧きます。平戸弁が飛び交い楽しい一時でした。

年に一、二回は帰る故郷ですが、改めて私の故郷はどんな所なのだろうと思いを馳せます。平戸市は長崎の北西にある島です。島と言っても九州からそれ程離れている訳でも無く、現在は橋がかかっており、車での行き来ができるようになっています。リアス式の海岸線で入り組んでおり、波の立たない天然の良港が平戸の中心部となります。この港が大陸から近いと言うこともあり、一五五〇年から約百年間日本の海外貿易の拠点となっていました。オランダ商館やイギリス商館などが立ち並び、日本で唯一外国の窓口となっていたのです。

当然当時の明や清との交易も行われていました。時代の最先端の情報発信基地だった訳です。鉄砲も種子島より早く伝わっていたとの記録もあるそうです。ただ、密貿易だった為歴史には記録されていないようです。

今は九州の外れの田舎町となっていて、主な産業は漁業です。私の住んでいた所も漁船の船着き場の前にあり、平戸に住み続けていれば漁師になっていたかもしれません。最近は「アゴ」が脚光を浴び、雰囲気が賑やかになりました。「アゴ」とはトビウオのことで、アゴの煮干しで取った出汁がブームになっています。平戸は「アゴ」の漁獲高が日本一なのです。

この前引退されたジャパネットタカダの高田社長も同じ平戸出身です。よくしゃべり方が似ていると言われることもありますが同郷なのでその通りですね。

歳を取るとだんだん自分のルーツと言うか、根っこの部分が気になりだします。生まれ育った場所はいつまでたってもどこか繋がっているようです。

石屋　紀次

## 楽しいのです

4月からの授業に加え、年に2回ゼンタングルの講習会が5月にありました。両方受けようとする私はかなりのハードスケジュールですが、それもまた楽しいと思っています。絵の講習会は今回、4講習を受講しました。ブラッシュアップという、技量を上げていく講習、違った形の用紙に描いていくという講習等と盛りだくさんでした。講習も楽しいのであっという間に時間は過ぎますが、やはりさぼっていると、思うように表現できません。それでも「〇〇でなければならない」という括りはなく、誰でも描けるから楽しい。勿論自分にプレッシャーをかけてしまいます。でも、絵の出来より、心の安定が先なのです。講習後は友人と集まって食事を楽しんで、こちらでも心の安定を計ります。何をしても今の時期の私は楽しいのです。

石坂　千孝

## 休日の過ごし方

今年のお神輿も本格的に始まり、最近の休日は、神輿渡御のご奉仕に参列しています。足の型が上手だと言って頂き、今年は数ヶ所で女神輿の薦めも頂きました。男神輿と女神輿で担ぎ方が少し異なるので男神輿の隣で一緒に巡行させて頂いています。汗をかいた後のお風呂は本当に気持ちがいいです。GWは父方の実家がある横浜・川崎へ行きました。「シューイチ」という番組で取り上げられていた、2つ星ミシュラン元鮨職人が作るハンバーガー店が気になり、東京目黒のお店へ行きました。開店時間前だというのにすでに行列ができており、1時間半並んでやっと食べられました。注文を受けてから作る昆布〆フィッシュバーガーはボリュームもあり、少し高いだけあって味も高級感がありました。SNS映えするおしゃれカフェもはしごしました。一人でブラブラ行動することが多いですが、東京には友人がたくさん住んでいるので時間があう時は合流してご飯に行くのが楽しい時間です。

中島　あゆ美

## 北海道

GWに夫と2人で人生初の北海道へ行きました。ぎりぎりの予約だったので、2泊3日しかとれず弾丸旅行になりました。今回の目的は食を楽しむこと。

飛行機で新千歳空港に到着してすぐ、北海道ラーメンを食べました。美味しいのですが、私の感想は味噌より豚骨派。

その日の宿泊が旭川だったので、夕張を経由して旭川に入りました。晩御飯に選んだ「らんまん」という焼き鳥の店が、るるぶにしか載っていない店で、一押しの新子焼きを食べました。店の雰囲気がローカルぽくて良く、鳥も美味しくて大満足でした。

2日目は旭山動物園に行き、美瑛に寄って青の池を見ました。写真の通り透き通るような真っ青な池で、感動しました。その後富良野へ向かいドラマ「北の国から」の五郎さんの石の家に行きました。その日の昼は「唯我独尊」というカレー屋にしました。行列ができるカレー屋で味もスパイスの辛さが口に広がり食べたことのない味でした。ご飯が残った状態で「ル～ルルル～」と言うと、ルーを何回も貰えるシステムなのですが、結構な方がルーのお替りをされていました。私はお腹が一杯で出来ず、横目で見ていて面白かったです。そして、札幌についた夜は「魚一心」という居酒屋に行きました。弟が札幌に住んでいるので、この店で合流しました。価格はリーズナブルで、どれを頼んでも美味しく、北海道に入って初の海鮮を味わいました。お勧めは焼きハラスの下にいくらを敷き詰めた一心丼です。あと毛蟹や、銀ダラも食べました。どれも最高でした。

最終日は小樽へ行き、お寿司を堪能し空港へ。フライトまで時間があったので、最後に締めのラーメンを食べました。

北海道を周るにはあまりにも弾丸すぎたので、次はもう少し余裕をもって行ってみたいです。これだけ食べたのに、体重があまり変わっていなかったのがよかったです。

石田　智恵